



山田学区 まちづくり計画

2020年4月（改訂）

山田学区まちづくり協議会

1 目的

この計画は、山田学区が地域住民や各種団体等の協力と協調のもとに、多様化していく地域課題を自らの地域で解決し、住み良いまちづくりに取り組むための行動指針として策定します。

2 計画期間

2020年度～2024年度

3 地域の現状と課題

山田学区は、草津市の西部に位置し、西側は琵琶湖に面し、古くから水田が広がり、特に旧草津川の河口付近では、肥沃な土地に恵まれた都市近郊型の野菜団地として、ビニールハウス群が立ち並ぶ大規模な畑作地帯となっています。

全体的には、こうした田園地帯を中心とした緑豊かな学区であるが、東部地域においては市街化の伸展の中で宅地化が進み、大津湖南幹線等主要道路沿いには、各種の商業施設が立地するなど、都市化が進んでいます。

平成29年4月末現在で、人口は7,892人、世帯数は3,213世帯となっていますが、市内で最も人口減少が多く、この5年間で人口が約4%減少し、高齢化率は市内で3番目の29.2%、年少人口比率は最も低い11.7%で、少子、高齢化の進んだ地域となっています。(草津市住民基本台帳 H29.4.30現在)

当学区では、こうした高齢化の進展などによって一人暮らしや高齢世帯が増加し、このことが地域活動(まちづくり)の担い手不足につながり、地域コミュニティの希薄化なども相まって、ご近所力の低下を招いています。

また、木造家屋が密集し、地震災害時の被害が市内で最も大きい地域とされていることから、地区防災計画の策定に取り組むなど、災害時の対応も地域の大きな課題となっています。

4 地域の将来像(めざす姿)

～笑顔のまち 住みよいまち やまだ～

5 まちづくりの基本方針

○住み続けたいまちづくり

○健幸なまちづくり

○ふれあいのあるまちづくり

○まちづくりのための協議会

6 地域の将来像実現へ向けて

草津市や地域の各種団体と協働し、地域再生法などの活用を図りながら「活気あふれるまちづくり」の実現を目指します。